

## 経営一転語 69 補助金はもらうべきか

企業として、公的機関からの補助金をもらった方がいいのかどうか、という問題があります。色々な種類の補助金がありますが、よく考えることなく、「もらえるものは何でももらおう」というのはすこし短絡的かもしれません。

なぜかといいますと、「行政の考え方に合わせて経営をしてしまう」という危険性があるのです。どういうことかと言いますと、補助金をもらうために、「雇う必要のない高年齢の人を雇ってしまう」とか、「補助金の受給要件に合わせて我が社の戦略を変える」ということをするのは、大変危険だということです。

一つのたとえ話をします。ある村では川、海そして井戸などがなく、日照りが続くと飲み水がなくなり、非常に困っていました。その村の人たちを救う方法としてはどのようなことができるでしょうか。

水を与えることも一つの方法でしょう。しかし、水を与える方法は、水がなくなれば、また水を与えなくてははいけません。際限がありません。これが補助金です。営業努力をせずして収入になります。実際、補助金は、会計上は「営業外収益」です。

村人を救う、もう一つの方法として「井戸を掘る技術を教える」ということがあります。この方法は少し時間がかかりますが、一度習得してしまえば、村の人たちは自立して生活ができるようになります。

この方法は言葉を変えていえば、教育、技術指導、経営指導ということです。この方法は、困っている人が自立する方法でありますし、自立した人がまた困っている人を救う側にまわる拡大再生産の方法でもあります。

短期的な観点も必要ですが、長期的観点に立って、我が社のことを考えるということも必要だと思えます。

バブルが崩壊して以降、バラマキの度合いが強くなっている気がしますが、いずれにしても、行政に振り回されないことが大切です。行政側の政策立案者も、そこのところをよく考えながら、短期的成果を求めただけでなく、長期的観点で政策をつくってほしいものです。